

## 会長挨拶

中央大学公認会計士会 会長  
宮内 忍

私は、三和彦幸前会長からバトンを引き継ぎ新たに会長に就任いたしました宮内 忍です。三和前会長の挨拶にもありましたように初代川北博会長の運営上の基本的考え方に従って運営を行いたく、敢えて今回も5つのポイントを掲げさせていただきます。

- ・中央大学出身の会計士のための会であり、特定の人やグループによって運営されてはならない。
- ・より強く若い会員の参加を期待したい。
- ・次元の高い人間集団となろう。
- ・中央大学の会計学の学統を大切に実務家として研鑽する。
- ・現会員のためだけでなく、中央大学やあるいは将来の会員である在学生のためにも事業展開を図る。

上記基本的考え方は非常に含蓄のあるものであろうかと思われます。

最初のポイントは、今回私が選ばれたこと事態が証明しているかと思われます。私は在学中何処の研究会にも属さず、ゼミにおいても先輩のいないゼミに属しておりましたから、いわば中央大学においては、先輩後輩の関係をほとんど有していない者でした。今回選出されるに当たり、私で良いのかと何回も確認をするほどでしたからその辺

の事情もお察し頂けるかと思えます。

2番目のポイントが、最も重要な課題であろうと思っており、後で再度触れていきたいと思っております。

3番目のポイントは、時宜を得た研修会を年2回実施しておりますが、これの充実と拡充をどのように達成するかについて幹事さん達と検討し計画していきたいと思っております。

4番目のポイントは、中央大学は、日本公認会計士協会における最多の会長輩出校であり、併せて副会長・常務理事等多数の役員を輩出し、さらに委員会委員長も輩出しております。そのような伝統を育むと同時に、これを若い会員に伝えていくための仕組み作りを会員に判るように焦点を当てていきたいと思っております。

5番目のポイントは、これも2番目のポイントと同様重要な事柄であると思っております。この将来の会員となる在学生のためにどのような活動が可能かについて幹事さん達と検討し、既に、在学生及び卒業生の公認会計士試験受験予定者に対してOBによる法人の募集状況並びに経験を生かしたアドバイスの機会を経理研究所主催のもとと会計士会として協力させて頂いております。更なる、項目としても幾つかあがっており即座にできるものと時間をかけて計画していくものと整理し進め

て参りたいと思っております。

さて、2番目のポイントに戻りますが、三和前会長の意向および幹事さん達のご努力もあり、若い会員が増加した中で、さらに今回私も若い会員の増加に力を入れて参りたいと思っております。その際に、個人的には親しいものの、卒業生と直接関係を持ち続けている大学教授と中大公認会計士会との関係を、親睦を図りながら、ゼミの卒業

生である公認会計士たちに教授から当会への参加の働きかけをお願いしてみようとの計画を考えております。

従来からの顔なじみになっている会員の方々の継続的なサポートと、若い会員の方々の積極的参加を頂くことにより、より活発な会務運営を図って参りたいと思っております。

## “古希、そして定年退職”

前中央大学教授（当会会員）  
木下徳明



私は、平成21年12月5日で満70歳、古希を迎え、さらに平成22年3月31日をもって中央大学商学部教授を定年退職となりました。

大学での教鞭は、昭和47年4月から兼任講師として教壇に立った時から始まりました。平成14年4月からは専任教授として大学に勤務することになりましたので、通算37年間、教壇に立っていたこととなります。その中で、ゼミ担当を36年間続けてきましたので、ゼミ卒業生は500名を超えました。

この37年間の間には、日本公認会計士協会での役員（理事・常務理事）としての活動期間16年間に重複しています。昭和60年から平成13年の間は、村山徳五郎先生、山上一夫先生、山本秀夫先生、そして高橋善一郎先生の4人の会長時代です。

以上のような大学や公認会計士協会での活動の場を与えていただけたのは、恩師井上達雄先生の深い愛情とご理解のもとに、多くの諸先輩や良き仲間へ支えがあったからだと思えます。

とりわけ、中央大学公認会計士会の歴代の会長、幹事長をはじめ諸先輩には、たいへんお世話になりました。私の場合には、学生時代に在籍した会計学研究会の仲間達、さらに井上達雄先生のゼミ

の先輩である中央大学名誉教授渡部裕巨先生を核とした同期生の方々、特に増田浩二先生、籾本道男先生、川島正夫先生には本当にお世話になりました。井上達雄先生からの信任が厚かった4人の先生方からは、ひとかたならぬご支援を賜りました。ありがとうございました。

さて、これからのことですが、確か昭和20年代頃までは、人生僅か50年と言われていたように思いますが、平成の昨今では平均寿命が延び、男性79歳、女性86歳と言われております。日頃の健康管理を怠らなければ、大方の人たちが平均寿命まで生きられるとのこと。古希と言えは70歳ですから、健康管理を怠らなければ10年近くは生きられるということになります。長いか短いかは人によって感じ方が違うでしょうが、健康を維持して10年生きることはたいへんな精神力を必要とすると思われま。明日という日を当然のものとして迎えることができるためには、実感をもって今日という日を生きることが必要と考えます。

さて、古希を迎え、定年退職をした私にとって、これからの毎日を本当に生きて実感を持って過ごせるのか自信がありませんが、将来に明確な目標や課題を持って、その実現に邁進することが

できる状況にあるならば、毎日生きている実感を持って過ごし、明日を迎えることに喜びを感じる事ができるでしょう。しかし、残された人生を10年と限ってしまうと、10年で何ができるのか、これからの10年で将来の夢や希望などを掲げて、その実現に向けて日々邁進するなどの気力、体力が残っているのだろうかなどと考えこんでしまいます。今までの10年とこれからの10年、いったい何が違うのだろうか。10年間という年月は計算上は同じですが、何か違うという感じがします。10年過ぎた時、さらに先に10年ある場合と、先

に10年がない場合、10年の過ごし方が異なってきそうです。

そこで、しばらくの間、何も目標や課題を掲げずに過ごしてみることにします。その中で、残りの人生の過ごし方を模索してみることにします。

今まではフォーマルな組織のもとでの目標なり課題が中心であったわけですが、これからはインフォーマルな人間関係を前提に時間を過ごすことが多くなるだろうと考えます。まずは、楽しいと感じられる時間を多く持つことを心掛けたいと思います。健康管理に心掛け、平均寿命を超えます。

## 『翔る！ 公認会計士—グローバル時代を果たす使命—』 ～日本公認会計士協会 (JICPA) 第30回研究大会報告～

幹事  
三宅博人



平成21年8月6日(木)、新潟市朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)において、表題の研究大会が開催された。新潟は、佐渡島で育ち、新潟大学で学んだ、JICPA 現会長、増田宏一氏の第二の故郷？(ご本人曰く正確には東京生まれとのこと)であるとともに、研究大会開催時点で放送中のNHK大河ドラマ「天地人」の主人公、直江兼継ゆかりの地であり、節目となる30回目に相応しい土地での開催となった。

研究大会前夜祭は、国の重要文化財にも指定されている新潟のランドマーク「萬代橋」のたもとに佇む老舗、ホテルオークラ新潟で開催された。信濃川の夜景に目を馳せながら会場入りし、夏の名物である茶豆や水茄子にはじまり、新潟ならではの地元の食材をふんだんに盛り込んだ料理に舌鼓を打ちながら、酒どころ新潟の地酒を痛飲した。

大会当日は、午前と午後それぞれ4会場に分かれての8つのセッションが行われた。午前中は、①「M & Aにおける公認会計士の役割」、②「国際会計基準に対応する監査人の役割」、③「会計基準の国際的潮流とASBJの取組み」、④「最近

の会計・開示行政上の課題」、午後は、⑤「地域社会における公認会計士の役割」、⑥「国際財務報告基準(IFRS)の各国の動向と日本の対応について」、⑦「公監査を公認会計士・監査法人(民間監査人)が実施する場合に必要な制度要因の研究・調査(中間報告)」、⑧「なぜ職業倫理は理解し難いのか」である。発表者は公認会計士にとどまらず、学会、産業界、監督官庁、会計基準設定主体からJICPAの事務局スタッフに至るまで、会計・監査に関わる様々なステークホルダーが英知を結集して鑄(しのぎ)を削り、いずれ劣らぬ競演となった。

その後の記念講演会では、「天地人」の原作者である火坂雅志氏が、現代社会において失われつつある「義」の心について熱弁を奮い、こちらも聴衆を感動の渦に巻き込んだ。

記念パーティーは、朱鷺メッセ・スノーホールで開催された。G8サミット開催時に各国のVIPの舌を唸らせたという新潟和牛やローストビーフ、地元ならではの新鮮な魚介類を堪能しながら、様々な地酒や佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」の勇姿等

に酔いしれた。

パーティー終了後も、会場を移して、恒例である中央大学公認会計士会主催の二次会を開催した。旧交を温め合い、また、先輩・後輩や監査法人・個人事務所の枠を越えて懇親を深め、さらなる結束を誓い合った。

研究大会翌日は、様々なエクスカージョンがオプションで用意されており、各々、関心のあるツ

アーに参加されたことと思う。筆者は、当然に仕事へ直帰したが、今回のツアーを企画したJTBのご担当者が、「アムール河湖畔の街、ハバロフスク4日間の旅」なる企画があつという間に満員となり、回数を増やしたことについて触れ、「さすがは公認会計士の先生方は違いますね！」と妙な感動？を口にしていたのが印象的であった。

## 第22回CPAゴルフ十月会参戦記

日本公認会計士協会副会長（当会会員）  
黒田克司



平成21年10月3日、第22回ゴルフ十月会が開催されました。この大会は、CPAならばどなたでも参加できるCPA業界唯一のユニバーサルな懇親ゴルフ会であり、お世話する優勝幹事を決めるために上位4名のアンダーハンディによる大学対抗戦が組み込まれています。

今回の会場、鶴舞カントリー倶楽部での開催は、初めてでしたが、美樹美林に囲まれた名匠井上誠一氏の設計による風格あるチャンピオンコースです。

今回の参加者は90名13チームでしたが、我中央大学からは例年よりかなり人数が減ったものの、6名が出場いたしました。これまでは、増田浩二代表世話人、川和浩代表幹事の両先輩が中大の世話人として永らくご尽力をいただいておりますが、次回からは本会、中央大学公認会計士会が世話人として皆様方へのご案内等のお仕事を引き受けることになりました。両先生のこれまでのご苦勞に報いる意味でも次回参加者の倍々増を図りたいと願っておりますので、奮ってご参加いただけますようお願いいたします。

さて、当日は秋晴れの好天に恵まれてと云いた

ところですが、残念ながらハーフ終了後、一転にわかにかき曇り雷鳴轟き、強風が吹き荒れ1時間程の中断後、中止決定となりました。このため、成績は未了のハーフをすべて36として計算するという異例の大会になりました。もっとも、初めてのことではなく2度目ということでありましたが、幹事校の専修大学の皆さんにはたいへんお世話になりました。

荒天にもめげず、法政大学が団体戦優勝（次回幹事校）、追い込み型？の我中大は6位でした。入賞に貢献された4名の選手は、宮内忍氏、森谷伊三男氏、佐藤俊一氏、増田浩二氏でした。誌面をお借りしてご健闘を称えます。

第22回成績表（7位以下は省略）

順位	校名	ネットスコア
1	法政大学	288.2
2	一橋大学	289.6
3	早稲田大学	289.6
4	日本大学	290.2
5	専修大学	291.2
6	中央大学	292.4

## 第20回 白門ゴルフ大会参加報告

幹事  
伊藤 肇



去る平成21年11月16日(月曜日)に第20回白門ゴルフ大会が、東京都多摩市の桜ヶ丘カントリークラブで開催されました。今回の白門ゴルフ大会は、第20回記念大会でもあり、総勢40組、234名が参加し、いつにも増して華やかな雰囲気包まれていました。そんな中、われらが公認会計士会からは、宮内会長を始め、三和前会長、日本公認会計士協会副会長の黒田さん、同じく協会常務理事の山田さん、柏寄幹事長、河合幹事と筆者の2組7名が、他に参加された方の実力も省みず、優勝を目指して参加いたしました。競技は今回もダブルペリア方式で個人戦と団体戦とが行われました。

好天に恵まれた中、最初の組は7時46分にスタート、会計士会チームは、学員会にわがままを申し上げ、最後の2組の9時52分のスタートとさせていただきます。今回も学員会から提供されたキャディバックや福砂屋のカステラを始めとする豪華商品を狙って、親睦を図りながらも皆様真剣にプレーされたことと思います。会計士会チームは、2組出場ということもあって、去年以上に賑やかにスタートしていきました。桜ヶ丘カントリークラブは、最寄り駅が京王線の聖蹟桜ヶ丘と都心に非常に近いにも関わらず、名門の名に恥じない戦略的なコースでした。フェアウェイの左右は、傾斜がきつく、しかも、グリーン周りが2グリーンから1グリーンへの工事となっており、余計に難しくなっていたように思います。ことのほかバンカーが難しく、筆者などは数回ホームランしてしまいました。プレー終了後は、シャワーを浴びてクラブハウスで食事を取りながら互いの健闘(?)を称えつつ、和やかな雰囲気の中、表彰式に先立ち、まず久野修慈学員会会長のご挨拶を頂きました。世界経済や日本経済の先

行きが不安視される中で、不況に打ち克つべく中央大学学員会のより一層の団結を呼びかけられ、一同が誓い合ったあと、いよいよお待ち兼ねの結果発表・表彰式が行われました。我々が想像していた以上に参加された方のレベルが高く、70台で回った方が7名いらっしゃると、玄人裸足がたくさんいらっしゃいました。中には、鎌ヶ谷カントリー白門会チームで参加された73歳の濱村毅さんが、72のパーで回りエージシュートを達成されどよめきがおきるなど、非常に盛り上がった表彰式となりました。われらが会計士チームにおいても、表彰式が始まるとすぐに140位に河合幹事、130位に山田さんが表彰されるなど、興奮もあつという間に最高潮に達したのですが、残念ながら、その後は失速し、個人戦では筆者の30位が最高位(といっても、ハンデがたまたま良かったからですが…)。団体戦では、Aチームは11位、Bチームが37位と奮闘むなしい結果となりました。しかし、そこは転んでもただでは起きない会計士会チーム…来年の優勝祈願を心に秘め(?)反省会と称して夜の聖蹟桜ヶ丘の街に繰り出し、多量の日本酒と芋焼酎で大いに盛り上がりました。

白門ゴルフ大会は毎年和気藹々とした雰囲気で開催されており、どなたでも楽しくプレーすることができます。特に会計士会チームは、気さくな方ばかりで、初めての方が参加されても、楽しく気軽にプレーできることは折り紙付です。来年度は今年以上の一般の参加も期待しており、最低でも3チームで出場を果たしたいと思っております。大会が近づきましたら、ご案内を差し上げますので、是非奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

## 【競技結果】

公認会計士会 Aチーム 11位

参加者のお名前	グロス	ネット
宮内 忍さん(当会会長)	91	75.4
黒田克司さん(日本公認会計士協会副会長)	97	77.8
柏崎周弘さん(当会幹事長)	90	74.4
伊藤 肇(当会幹事)	98	74.0

公認会計士会 Bチーム 37位

参加者のお名前	グロス	ネット
三和彦幸さん(当会前会長)	96	76.2
山田治彦さん(日本公認会計士協会常務理事)	102	81.6
河合明弘さん(当会幹事)	119	87.8



## 2009年度中央大学公認会計士試験合格者祝賀会



幹事  
吉井敏昭

2009年12月15日 アルカディア市ヶ谷にて、中央大学主催による2009年度公認会計士試験合格祝賀会が行われました。

まず開会の挨拶として、永井和之中央大学総長・学長より、「来年、中央大学は125周年を迎えます。そして、商学部は創設100周年になります。今年の公認会計士試験合格者は、その中央大学商学部100年の歴史の節目の方々です。中央大学は、今後とも益々の発展を遂げますので、今年の合格者の方々は、この中央大学とともにさらに発展して行って頂きたい」とのお祝いの言葉を頂きました。

続いて、久野修慈中央大学理事長・学員会会長

より、「世の中は、常に光と影の部分があり、光だけではなく、影の部分も重要です。影の部分があるからこそ、光も輝くことができるのです。合格者の方々は、光と影の関係を十分に理解頂き、その上で社会の光として活躍して頂きたい」とのお祝いの言葉を頂きました。

来賓代表として、増田宏一日本公認会計士協会から、「我が国の会計は国際基準に合せるという開国の舵取りを行いました。激動の時代ほど、チャンスがあります。会計は強力な武器なのです。日本公認会計士協会は、若い方々の活躍を応援しますので、このチャンスを生かしてご活躍して頂きたい」とのお祝辞を頂きました。

同じく来賓代表として、初川浩司あらた監査法人代表執行役からは「合格者の方々には、公認会計士としてチャレンジをして頂きたい。そして、その時に一番大切なことは誠実であることです。合格した皆様には誠実なプロフェッションとしてご活躍頂きたい」とのお祝辞を頂きました。

乾杯は、中央大学出身である黒田克司日本公認会計士協会副会長により「勤勉、謙虚、研鑽という私の持論である3Kをお祝いの言葉として送ります。合格おめでとうございます。」の音頭で盛大に行われました。

しばし歓談ののち、石川鉄郎中央大学商学部長から合格者へ記念品の贈呈があり、合格者を代表して文学部4年生の大山未央さんから「経済的にも精神的にも自立した女性になりたいと思ひ会計

士を目指しました。中央大学では社会学も学びたかったので、転部せず、他学部である商学部の授業を活用して勉強しました。皆様に支えられて合格できました。ありがとうございます」と御礼の挨拶がありました。

閉会の辞は、長内 了中央大学常務理事より、「有資格者になられた皆様は、これから厳しい環境にさらされる時もあるかと思ひます。しかし、その厳しい時には、ぜひ、この中央大学を思い出して頂きたい。中央大学125周年の歴史の上に皆様はあるのです。きっと、それが心の支えになるはずです。また、これまで支えて下さったご両親への感謝の気持ちも忘れずにいて下さい。おめでとうございました。」とお言葉とともに盛会裏に終了しました。

## 中央大学公認会計士会 平成22年度賀詞交歓会及び研修会

幹事  
成田智弘



平成22年1月28日に、ミシュランの星を獲得している神楽坂のレストラン「ラリアンス」のメインダイニングを借切り、賀詞交歓会及び研修会が開催されました。

柏崎周弘幹事長の司会で、黒田克司日本公認会計士協会副会長から「日本公認会計士協会（以下、「JICPA」という。）の最近の活動状況」と題して、JICPAのガバナンス改革、就職問題、職域問題、国際会計基準、健康保険組合の設立計画、JICPAの自治の強化など多岐に渡る貴重なご講演をいただきました。主な内容はつぎのとおりです。

公認会計士試験合格者の未就職者が多数であるため、就職問題協議会を設置し支援策を検討していること、金融庁での「公認会計士試験合格者等の育成と活動領域の拡大に関する意見交換会」で、試験制度を中心に国際会計士連盟（IFAC）などの国際教育基準（IES）とのハーモナイゼーション

（調和）の観点から、大学卒業要件、経済学の必修化、租税法の択一試験への導入、大学の教育プログラムとの整合性などを主張していること。

公認会計士の税務業務について、弁護士会との協調や様々な誤解を解くべく公認会計士が税務業務を行う背景の理解促進へ取り組んでいること。

IFRS導入に関連して、連単分離の考え方の説明に加え、確定決算主義が過重な負担とならないように検討することが不可欠であること。

また、JICPAの会員、特に大手監査法人以外の会員のために、健康保険組合の設立を計画していること。

さらに、JICPAの自治強化のために、他律的な懲戒から自主規制機関として、懲戒に「退会勧告」を導入すること。

講演に引き続き、税理士会のCPEとの相互認証や職域問題、IFRS導入による公認会計士の国

際間の競争や資格の相互承認などについて、活発な質疑応答が交わされました。

貴重な研修会の後に、宮内忍会長のご挨拶、三和彦幸前会長のご乾杯のご発声により、懇親会が開催されました。ミシュランの星を獲得しているレストランの料理を味わいつつ、昨年の試験合格者の紹介、15年ぶりに投票となるJICPA東京地区役員選挙の概況及び立候補者の紹介、木下徳明中

央大学教授からの祝電の紹介なども行われました。10名を超える昨年の試験合格者の出席もあり、盛況かつ活気に溢れた賀詞交歓会が執り行われ、歴代会長のお一人でもある福田眞也氏による一本締めで閉会となりました。来年度はより多くの参加を得て、一層の親交を深めることを期待します。

## 公認会計士試験受験生向けの経理研究所 「監査法人採用説明会・OB懇談会」開催を支援

商・会計 平成4年卒（当会会員）  
石野研司



暑さ残る平成21年8月25日(火)に中央大学経理研究所主催で「監査法人採用説明会・OB懇談会」が中央大学駿河台記念館の510教室において開催されました。

監査業界においては、内部統制監査制度及び四半期レビュー制度が2年目となるとともに、未曾有の金融不況に伴うクライアントの業績悪化を受け、監査法人の経営環境も厳しくなってきたため、本年度の大手監査法人の採用環境が昨年にも増して厳しい状況になることが予想されておりました。そこで、当会の柏崎周弘幹事長の「中央大学出身のOBから直接、監査法人の状況を聞き、また、懇談を通じて、より中央大学出身の公認会計士試験合格者が、無事、就職することができるように。」との熱い思いから、中央大学経理研究所の清野強事務室長へ働きかけた結果、このような会の開催に再び至ったものであります。

今年の公認会計士論文式試験は8月21日から23日に実施されました。この説明会・懇談会は、試験終了直後の疲労感残る中、また、専門学校においても同様の「監査法人就職説明会」が実施されていたにもかかわらず、出席者は40人を超え、510教室が窮屈に思える盛況ぶりでありました。再度、厳しい就職状況を認識させられ、改めてこ

のような会の開催の必要性が証明されたかたちとなりました。

当日は、最初に当会会長の宮内忍氏（前日本公認会計士協会副会長）から、「大学の先輩・後輩を通じた数少ない情報入手のチャンスであり、諸先輩方の話を良く聞いて、積極的に質問し就職先を選んでほしい。」とのご挨拶があった後、1日かけて、各4大監査法人の法人概要や法人の特色等の説明がありました。各監査法人の説明担当者は、新日本有限責任監査法人からは福原正三シニアパートナー、あずさ監査法人からは柏崎周弘代表社員・石野研司社員（当会会員）ほか若手会計士数名、トーマツ有限責任監査法人からは後藤徳彌パートナー（当会監事）ほか若手会計士数名、あらた監査法人からは人事担当の藤原史郎マネージャーほか若手会計士数名であった。

受験生は、普段着慣れないスーツを着ながらも、午前10時30分からお昼休憩を挟み午後5時まで、各監査法人の特色やOB達との個別の相談・懇談会を通じて、今年度の募集・面接状況だけでなく、採用後の給与条件等も積極的に質問しており、出席者の監査法人選び・就職活動の真剣さを感じた次第でありました。なお、この「監査法人採用説明会・OB懇談会」の前日には、面接実技指導と

して模擬試験も実施されておりました。

今回の「監査法人採用説明会・OB 懇話会」の開催に当たっては、中央大学商学部部長で経理研究所所長であります木島淑孝先生、経理研究所事務室長の清野強氏の全面的な協力のもとで開催

できたものでありますので、この場をお借りして感謝の意をお伝えしたいと思います。

最後に、当会では今後も中央大学の後輩諸君の当業界での活躍を支援すべく一層の支援を重ねる所存です。

## 公認会計士試験合格体験記



商学部4年  
大場大史

私が、公認会計士という職業に就くことを本格的に意識したのは、高校生のときでした。大学進学を考える前提として、色々な職業について調べていたある日、公認会計士という職業を見つけ、すぐに興味を持ちました。若いときからクライアント先の重職の方と直接対話が出来ること、様々な会社の内部情報に触れることが出来ること、現代の経済社会における重要度やこれに伴う社会的責任の重さなど、魅力に溢れていました。

高校生の半ばにして公認会計士という職業に憧れを抱いた私は、大学進学が決定する以前から簿記の勉強を始め、運よく高校生のあいだに日商簿記2級に合格することが出来ました。このことがきっかけで、私は公認会計士以外の職業選択の余地を切り捨て、大学入学時にはもう公認会計士になるということを決めていました。

大学に入学してからは、朝から夜まで受験勉強に時間を割き、まさに情熱に燃える少年そのものでした。大学の授業と授業の間の細切れの時間の使い方や、効率良く知識を定着させるための方法など、吉田先生に毎週のように相談に行き、自分に課した課題を必死にこなしていく日々を送りました。そのおかげで、大学2年時の短答式・論文式試験では納得のいく成績を残すことが出来ました。

しかし、大学2年時に論文式試験を受験するあたりから、私は自分自身に対して様々な疑問を持

ち始めていました。「いったい自分は何が『したい』のだろうか」、「一人の人間として今の自分を誇れるのだろうか」、「自分の世界に籠もりすぎて、周りが見えていないのではないだろうか」等々。何人かの先生、先輩、友人や家族に相談をすることもありました。「疑問が解決するまでじっくり悩んで考えれば良い」、「受験が終わってからゆっくり考えれば良い」、「今は少し休んだほうが良い」等々、様々なアドバイスを頂きました。それでも、疑問は月日が過ぎるごとに深くなっていき、どうしようもなくなっていました。約1年半の間色々なことを悩み考えました。その結果、本当にどうしようもないですが、何の答えも見出すことが出来ませんでした。言うなれば、「分からない」ということしか分かりませんでした。

そんな漠然とした日々を過ごしていたある日、久しぶりに親から電話が来て、会計士試験のことに触れることもなく、他愛も無い会話をして、いつも通りに電話を切りました。きっと親は、私の当時の状況や将来ことを誰よりも心配していたことだと思います。なのに、急かすわけでもなく、何を言うこともなく私を案じてくれていました。私はその電話を切った後、今さらながら自分の至らなさに気付かされました。同時に、自分は幸せ者で、幸せボケをしていたのだなと思いました。周りの人の支えや自分の恵まれた境遇に感謝することが出来なくなっていたのです。

この一件の後も思案の時期は続きましたが、これまでとは違って、思い悩むというよりは軽く物思いに耽る程度になり、心が軽くなり無駄な力が抜けたような状態になりました。すると、今までの時期が嘘のように受験勉強にも身が入るようになり、結果として運よく論文式試験に合格することが出来ました。

公認会計士試験に合格して、私が試験に対してどう思うかと問われれば、試験は試験として自分が勉強すれば誰でも合格出来るものだと思います。ただ、それは付随的な結果に過ぎず、本質的には試験合格という目標にたどり着くまでの道で出会った人との人間関係こそが、自分の最も価値のある財産だと思います。経理研究所で毎日毎日授業や質問コーナーで親身に御指導して下さい

師やスタッフの方々、いつも笑顔で迎えて下さる事務の方々、時に厳しく時に優しく叱咤激励して下さいのゼミの教授、悩んだ時は温泉や飲み連れで行って下さる先輩方、いつもバカを言い合える同学年のみんな、急に電話をしてくれて相談をしてくれる後輩達、試験合格を自分のことのように喜んでくれる地元の友人、いつも温かく見守ってくれる家族など、どれをとっても私の支えとなっており、いくら感謝してもしきれないくらい大きな財産となっています。

これから受験する方々、その中でも特に色々なことに悩んでいる方は、人間関係を大切にしながら試験合格という目標を見つめてみると、また変わった試験の色が見えてくるかもしれません。是非、目標目指して奮闘して下さい。

## 公認会計士試験合格体験記

法学部4年  
福原里奈



私は、大学入学当初、公認会計士になるつもりはありませんでした。では、なぜ私が公認会計士を目指すようになったのか、その理由を中心に、私の合格までの道のりを述べたいと思います。

中央大学附属高校出身の私は、高校2年生のときから、資格を取っておけば将来何かしらの役に立つであろう、という何気ない気持ちで経理研究所の付属高校簿記検定講座を受講していました。また、将来の夢などもなく、何気なく法学部へと進学したのです。そして、大学生になるからには、遊びたい、友達を増やしたい、サークル活動もしたい、おしゃれもしたい、アルバイトもしたいと考えており、しかし、その一方で、せっかく得た簿記の知識を失いたくなかったため、経理研究所での勉強も頑張りたいたい、という非常に欲張りな期待を持って大学に入学しました。

しかし、そのような欲張りな生活が、思い通り

に送れる訳はなく、気付けば学部の授業と経理研究所の授業とアルバイトが忙しく、サークルにはあまり参加できず、友達と遊ぶ時間もなく、ストレスが溜まっていくという不満だらけの毎日でした。さらに、1年生の終わりに、3度目の受験であった簿記1級に不合格となり、経理研究所の答練の成績はビリから2番目であったという事実が、私をどん底へと突き落としました。

私は、何においても中途半端な自分に嫌気がさし、将来について、本気で考えました。まず、女性であっても一生続けられる職業に就きたい、と考えました。法律家になることも選択肢として挙がりましたが、数字がぴったりと合い、ひとつの結論を導き出すことができる会計の勉強のほうが私には向いていると感じ、また、経理研究所の講師の方々のお話や、公認会計士の方による講演会などから公認会計士という職業の魅力を知り、公

認会計士になることを決心しました。しかし、経済的理由から資格浪人はできなかったのも、何としても在学中に合格しなければならない状況でした。その上、母からは、3年生で短答式試験に合格しなかったら、秋からは就職活動をし、一般企業に就職して、どうしても会計士になりたいのであれば働きながら勉強を続ける様にと言われてしまいました。特に将来への目標も持たずに生きていた私に、母が厳しいことを言うのも無理はありませんでしたし、むしろ、このような状況が私を奮い立たせたのです。そして、やるなら今しかない、と一念発起し、2年生のときから勉強に打ち込み始めました。

最初のうちは毎日の継続的な学習が自分のできるのか、という不安もありましたが、意外にも自分の勉強したことが次々と新たな知識として身に付くのが嬉しく、純粋に勉強が楽しいと思い、休みたいと思うこともありませんでした。そうして、2008年度、とんとん拍子で短答式試験を通り、母から出された条件をクリアすることができた為、ひとまずほっとしました。

## 公認会計士試験合格体験記

私が今回、公認会計士試験の受験生活で感じた1番のことは「支えてくれる人の存在」です。

私は経理研究所に所属して受験生活を送りました。そして私が在籍していた速習コースで主な担当をしていただいた吉田先生との出会いは、私にとってかけがえのないものです。吉田先生とは講義だけでなく、勉強面や精神面での悩みに親身になって相談に乗っていただきました。その中でも、短答式試験が終了して2週間程経ってから面談をしていただいた時のことです。

私は短答式試験を受けてから燃え尽き症候群の

ところが、本当に苦しかったのはここからでした。3年生の夏、科目免除を1つも取ることができないまま2008年度の論文式試験に不合格となつてからは、勉強が思うようにならず、そんな自分が悔しくて泣いてくじけそうになることが何度もありました。しかし、そのようなときは一人で抱え込まず、経理研究所の講師の方に相談し、たくさんのアドバイスを頂きました。それに加え、持ち前の負けず嫌いの性格と、絶対に公認会計士になるという強い気持ちと、何があっても最後まで諦めないというド根性でなんとか乗り越え、本年度、無事在学中に合格することができました。

試験に合格した今、この合格は私ひとり勝ち取ったものではない、とはっきりと言うことができます。受験勉強を通じて、私は多くの人に支えられているということ、身をもって感じました。適確なご指導をくださった経理研究所の講師の方々、陰で支え、応援してくれた家族、親戚、友人に心から感謝しています。ありがとうございました。



法学部3年  
田山大祐

ような状態になってしまい、全く勉強に手をつけられませんでした。仕舞いには、もう試験の合格なんてどうでもいいかな、とも思っていました。そのような状況を吉田先生に伝えると「お前の人生だから、お前の好きなようにやればいい。目指す気があるなら来年、それ以降に目指すのもいいし、あるいは目指さずに他の道を探すのもいい。ただ、今まで一緒に勉強してきた仲間に対して、お前はそれでいいのか？」と言われました。受験勉強は自らが望んで始めたとはいえ、決して平たんな道のりではなく、毎日続く勉強に嫌気がさし

て逃げ出したくなる時期もありました。それでも負けず乗り越えられたのは、速習コースの仲間のおかげでした。同じような悩みを共有したり、他愛のない話をしたり、勉強を教えあったりと、切磋琢磨して乗り越えてきました。それなのに、私は投げやりな気持ちになって、今まで支えてくれた仲間のことも考えずに身勝手な態度になっていました。そんな自分の状態を吉田先生は気づかせてくれました。以後、私はもう一度気持ちを引き締めて勉強し直し、公認会計士試験に合格することができました。この結果を得ることができたのは先生、そして仲間の存在が本当に大きいものでした。

また、自由に勉強できる環境を与えてくれた家

族、経理研究所の合宿で貴重なお話をさせていただいたスタッフの方々、私のために試験の当日にわざわざ神社まで足を運んでくれた友達、事務手続きなど受講生へ対応していただいている経理研究所事務室の方々、炎の塔を含め大学内をいつもきれいにいただいている清掃員の方々など、ここでは書き切れないほどの方々に支えられて受験生活を送ることができました。

本当にありがとうございました。

私自身、まだまだ未熟者で、これからもたくさんの方々に支えられて生きていくこととなると思います。しかし、今度は少しでも自分が誰かの支えになることができるよう、勉強はもちろん、人としての成長を目標に日々精進していきます。

## 平成 21 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位	(1)	慶應義塾大学	257 名 (375)	7	(一)	関西学院大学	43	(一)
2	(2)	早稲田大学	208 (307)	8	(9)	神戸大学	52	(83)
3	(3)	中央大学	158 (160)	9	(6)	同志社大学	52	(102)
4	(4)	東京大学	84 (114)	10	(一)	法政大学	41	(一)
5	(5)	明治大学	65 (110)	( ) は前年順位及び人数				
6	(7)	一橋大学	56 (93)	他大学の人数は日本公認会計士協会の調査による。				

## 公認会計士試験合格者 (158 名)

氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒
青山 可奈		4 年在学	大須賀哲哉	商学部	H20	久保 千尋	文学部	H15
浅田 智宏	法学部	4 年在学	大場 大史	商学部	4 年在学	熊谷 圭祐	法学部	H19
浅沼 禎之	商学部	4 年在学	大山 未央	商学部	4 年在学	倉益 淳司	商学部	H21
浅野 泰治	商学部	4 年在学	岡村 朋之	商学部	H16	倉増 典明	経済学部	H19
阿蘇 瞳	経済学部	H21	岡村 英和	経営学部	H18	久留島光博		4 年在学
網谷 優宏	法学部	3 年在学	沖山 大樹	商学部	3 年在学	黒木あい子		H18
池田 恵子	理工学部	H14	織田 秀剛	商学部	H19	高津 明久	商学部	H19
伊澤 寛信	商学部	4 年在学	小田 和宏	経済学部	4 年在学	小林 慧	経済学部	4 年在学
石井 太朗	経済学部	H20	落合 広樹	商学部	3 年在学	小林 大輔	商学部	4 年在学
石川 純輝	商学部	4 年在学	鬼柳 陽平	法学部	H15	齋藤 宇	商学部	H21
石黒 麻美	商学部	H20	小尾 圭伍	商学部	H20	齋藤 翔太	商学部	3 年在学
石澤 一成	商学部	5 年在学	片野 俊輔	総合政策学部	H21	榎原 京子	商学部	H20
石原 大介	商学部	4 年在学	加藤 拓朗	商学部	H21	佐々木英哲	理工学部	H15
石山 正人	経済学部	4 年在学	加藤 裕司	経済学部	4 年在学	笹山 正浩		H19
五十川 正統	理工学部	H7	加藤 尽	法学部	5 年在学	佐竹 篤	商学部	4 年在学
磯谷 雄大	商学部	H20	金井 正樹	法学部	H18	佐藤 博志	経済学部	H20
岩瀬 和彦	商学部	3 年在学	金久保哲生	商学部	H9	佐藤 淳一	法学部	4 年在学
岩永 拓也	法学部	3 年在学	川崎 洋介	商学部	4 年在学	佐藤 晋一		H21
宇賀神卓也	商学部	4 年在学	菊井 勇生	商学部	3 年在学	佐藤 博昭	経済学部	H18
牛久保 歩	商学部	4 年在学	岸本 展幸	商学部	4 年在学	里見 亮陸	法学部	4 年在学
内田 格	商学部	H13	北川 悠		H16	塩島 裕	商学部	H20
梅澤 義朗	商学部	4 年在学	北山 圭介	商学部	4 年在学	志藤 智之	商学部	H19
蝦名 大輔	商学部	H21	清藤 大介	経済学部	3 年在学	嶋本 修平	商学部	3 年在学

氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒
白方 敬裕	商学部	H18	中野 友美	商学部	H21	宮川 博次	経済学部	H15
新開 庸平	商学部	4年在学	中原 圭祐	法学部	H19	三宅 史記	経済学部	H17
菅谷 祥一		H21	中谷 理	商学部	3年在学	宮澤 勇貴	商学部	H17
杉谷 尚仁	商学部	H20	成田 充孝	経済学部	3年在学	宮部 将孝	商学部	2年在学
鈴木 裕太	商学部	H18	庭瀬 友昭	商学部	H19	宮本 大資	経済学部	H18
鈴木 雅敬	経済学部	H13	根津 智和	文学部	H14	三好 啓喜	法学部	H18
鈴木 剛	経済学部	4年在学	野口 裕介	商学部	H21	村田 秀幸	商学部	H21
鈴木 隆士	商学部	4年在学	橋之口 晋	経済学部	H13	村松 慶彦	商学部	H19
須藤 直樹	商学部	H21	橋本 慶一	商学部	H11	室橋 智雄	法学部	H20
関口 真季	経済学部	4年在学	服部 敦	商学部	H20	森 雄彦	商学部	4年在学
関田健一郎	経済学部	4年在学	羽鳥 勇	商学部	4年在学	森 直也	商学部	2年在学
関原 真語	商学部	H17	早川 公章	商学部	H17	森合 智明	商学部	4年在学
曾根 弘隆	経済学部	4年在学	林 孝之	理工学部	H18	森山 三紗	法学部	H13
高久 雄丞	商学部	5年在学	比嘉昌太郎	商学部	H21	八木真奈美	経済学部	H20
高野 綾	商学部	3年在学	平島 志郎	商学部	4年在学	柳本真優子	商学部	H16
竹内 裕哉	商学部	3年在学	廣光 伸哉	商学部	H21	矢野 達也	商学部	4年在学
竹村 淳一	理工学部	H21	福地 雅志	経済学部	H16	山口 実穂	経済学部	H20
田中 恵理	商学部	2年在学	福原 里奈	法学部	4年在学	山田 頌子	商学部	5年在学
田中 さや香	商学部	5年在学	藤田 健資	経済学部	3年在学	山田 惇依	法学部	H21
田邊 貴幸	商学部	3年在学	藤原 智明	法学部	3年在学	山田 直輝	商学部	5年在学
谷野健太郎	商学部	H20	古子 優樹	法学部	4年在学	山田 暁人	商学部	H19
田山 大祐	法学部	3年在学	古府 利規	商学部	4年在学	山根 知尚	商学部	4年在学
千葉 知裕	法学部	4年在学	星野 圭亮	商学部	4年在学	山本 英人	商学部	3年在学
月方 智彦	法学部	H16	堀口 拓志		H20	山本 篤	商学部	3年在学
土屋 学	経済学部	H16	堀越 大祐	商学部	H21	横井 智哉	法学部	H21
筒井 洋介	商学部		前田 俊	商学部	H21	横山 正亮	商学部	H18
時津 綾子	理工学部	H12	増田 優樹	法学部	H21	吉田友理恵	商学部	H21
戸田 圭亮	商学部	H17	松木奈々子	商学部	4年在学	米田 純平	文学部	H5
中金 春樹	経済学部	4年在学	松本 勇希	商学部	H18	若槻 周平	商学部	H19
長田 佳樹	商学部	3年在学	水野 泰治	商学部	4年在学			

## 中央大学公認会計士会規約 (平成21年6月16日改正)

第1条	本会は中央大学公認会計士会と称し、事務局は中央大学経営研究所内に置く。	第6条	会長は本会を代表主宰し、総会の議長となる。会長は副会長及び幹事長にはかり、母校評議員候補者及び協議員候補者等を選出し推薦する。会長は予算その他の重要議案について総会の議決を経なければならない。
第2条	本会は母校出身の公認会計士、会計士補及び公認会計士試験合格者相互の融和をはかり、公認会計士業界の発展と母校における公認会計士の育成、会計教育の充実に貢献し、母校の興隆に寄与することを目的とする。	第7条	副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を行う。
第3条	本会は公認会計士、会計士補及び公認会計士試験合格者の資格を有する中央大学学員をもって組織する。本会に特別の功労があった者を、役員会の決議を経て名誉会員とすることができる。会員は氏名、住所、職業、連絡先(電話)の変更があった場合は速やかに会長に通知しなければならない。	第8条	幹事は総会並びに役員会の決定事項及び本会の業務を処理運営する。幹事はその互選により、幹事長、副幹事長を定めることができる。
第4条	本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。 1 母校学生に対する指導後援 2 会員親睦会、講演会、見学会、座談会等の開催 3 会員の福利厚生に関する事項 4 会員名簿その他の印刷物の発行 5 母校評議員候補者の推薦及びその他の連絡 6 その他本会の目的達成のために必要な事項	第9条	本会に、名誉会長1名、顧問、相談役及び参与若干名をおくことができる。名誉会長、顧問、相談役及び参与は総会、役員会に出席して意見を述べることができる。会長は総会の承認を得て名誉会長、顧問、相談役及び参与を委嘱する。
第5条	本会に次の役員を置く。 1 会長 1名 2 副会長 若干名 3 幹事 若干名 4 会計監事 若干名 会長は、総会において会員中より選出し、副会長、幹事、会計監事は会長が委嘱する。	第10条	役員任期は2ヵ年とする。役員任期途中で事故のため退任した時は、会長の推薦により補充し、その任期は前任者の残存期間とする。
		第11条	会長は中央大学学員会支部長の職務を代行する者を副会長及び幹事長にはかり、選任することができる。
		第12条	会議は総会、役員会とし、会長が招集する。
		第13条	総会は定期及び臨時の2種とする。 1 定時総会は毎年1回、開催する。臨時総会は会長が必要と認めた時開催する。 2 総会の議事は議長を除く出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決すところによる。 3 総会においては本規約の他の箇所に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

第13条	(1) 会長の選出 (2) 事業報告並びに決算の承認 (3) 規約の改廃 (4) その他会長が必要と認めた重要事項
第14条	総会の招集は、会議の目的、日時、場所を示し、十日以前に会員に通知する。
第15条	総会の議事については議事録を作成し、議長、役員3名以上記名捺印の上保存する。
第16条	役員会は次の事項を議決する。 (1) 事業計画及び予算に関する事項 (2) 事業報告及び決算に関する事項 (3) 役員選出に関する事項 (4) 本会の運営に関する事項 役員会の議決は出席者の過半数をもって決議する。緊急の場合又は簡単な事項は会長が専決することができる。但し、専決事項については役員会に報告してその承認を受けるものとする。

第17条	本会の経費は会費、寄付金、事業の収入金をもって支弁する。会費は1ヵ年6,000円とする。但し、会計士補及び公認会計士試験合格者は1ヵ年3,000円とする。名誉会員からは会費は徴収しない。会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。
第18条	会長は毎年事業年度の終わりに下に掲げる書類を作成し総会の承認を受けるものとする。但し、これらの財務諸表については、事前に会計幹事による会計監査を受けなければならない。 1 正味財産増減計算書 2 貸借対照表 3 財産目録
第19条	本会内に地域ごとの部会を置くことができる。 付則
第20条	本規約は平成4年10月24日より実施する。 平成21年6月16日改正

## 編集後記

岸 田 靖

卒業・入学のシーズンとなりました。すっかり春めいた季節となっておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？

経済環境を取り巻く厳しさは一向に回復の兆しも見えず、会計士業界においても企業の破綻が止まらず、更に破綻の都度粉飾や不正会計などの問題もクローズアップされる結果となり監査環境はますます厳しさを増しております。また合格者の就職問題が深刻化するなど、対応すべき課題も多岐にわたっております。当会としても就職問題についてはできるだけの対応を行う方針とし、「監査法人採用説明会・OB懇談会」の開催を支援しましたので、その模様について当会会員の石野先生にご寄稿頂いております。会員各位におかれましても後輩が直面している当該問題について認識を新たにして頂ければと存じます。

今回の「絆」では巻頭において宮内当会新会長に就任のあいさつと抱負についてご寄稿頂きました。

また、平成22年3月を持って当会会員でもあります木下徳明商学部教授が定年により退官されました。当会も木下先生には様々な形でご指導・支援を頂いております。30数年に及ぶ教鞭活動を振り返りつつその思いについてご寄稿頂きました。

ゴルフの話題については白門ゴルフ会と恒例と

なっておりますCPAゴルフ十月会についてご寄稿頂きました。また、8月に新潟で開催された公認会計士協会主催の研究大会の様相について三宅幹事にご寄稿頂きました。毎年、中央大学公認会計士会主催の新年賀詞交換会を開催しておりますが、今回はその模様を成田幹事にご寄稿頂きました。

今年も150数名の合格者が中央大学から誕生しました。大学主催による合格祝賀会が12月に開催されましたのでその模様を吉井幹事にご寄稿頂きました。更に当年度の会計士試験合格者の中から大場さんと福原さん、田山さんには恒例の合格体験記をご寄稿頂きました。

また、昨年6月に「中央大学公認会計士会規約」の改正を行ったため、改正後の条文を記載しました。

なお、中央大学公認会計士会としてHPを開設して1年が経過しました。HP・絆ともども掲載内容などもこれから充実させていく所存です。併せて会員名簿の更新にも努めております。幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となりさらに会計士会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

中央大学公認会計士会報 No.16

平成22年4月1日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

宮内 忍

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5  
中央大学駿河台記念館4階  
中央大学経理研究所気付